第６２回愛知県公立大学法人評価委員会会議録

１　日　時

令和５年８月３日（木）午後２時から午後５時まで

２　場　所

愛知県庁本庁舎庁　６階　正庁

３　出席者

委員　５人

説明のために出席した者　１２人

４　傍聴者

０名

５　議　題

2022年度業務実績に関する評価について

第三期中期目標期間における業務実績見込に関する評価について

６　議事概要

【2022年度業務実績に関する評価について】

○　評価案を取りまとめて、次回の第６３回評価委員会で決定することとした。

【第三期中期目標期間における業務実績見込に関する評価について】

○　評価案を取りまとめて、次回の第６３回評価委員会で決定することとした。

【質疑】

第三期中期目標期間における業務実績見込に関するヒアリングについて

○　委員

まず初めに、前回の評価委員会では、時間の関係で議論ができなかった、第三期中期目標期間における業務実績見込について、法人へのヒアリングを行いたいと思います。本日は理事長、副理事長、副学長にもお越しいただきましてありがとうございます。その前にまず、ここで改めて委員の皆様、業務実績見込みの評価方法について確認させていただきたいと思います。

見込み評価は、2019年度から2021年度の実績を評価した評価結果と、今回評価を決定いたします2022年度実績の評価結果及び2023年度、2024年度の実績見込みの評価を総合的に勘案して、６年間の見込み評価を決定するものです。

なお、2023年度、2024年度の法人が示した実績見込みにつきましては、予定通り実施できるものとして捉え、評価をしていただきたいと思います。

この点につきまして、まず委員の皆様から、ご意見やご質問等ございましたら、伺いたいと思います。

（質問・意見なし）

○　委員

それではご意見がないようですので、早速実績見込の法人のヒアリングを始めたいと思います。前回の評価委員会で、両学長と理事に、業務実績見込の概要についてご説明いただきました。その内容についてはお手元の資料３でご確認いただきたいと思います。

また、前回の委員会終了後、事務局から委員の皆様にご質問、ご意見をお願いしましたところ、いくつかご質問、ご意見をいただきました。その内容につきましては、お手元の資料４のとおりでございます。これにつきまして、法人から回答をお願いしたいと思います。

実は、私からも３点質問・意見を申し述べさせていただきました。まずは県立大学につきまして、項番５の大学院人間発達学研究科において、生涯発達研究所や自治体・教育委員会との連携を含めたカリキュラムの見直しを実施と、記載されていましたけども、具体的に何を見直して、どのようにカリキュラムを変更したのか、もしくは変更する予定なのかご説明いただきたいと思います。

○　県立大学

ご質問がありました人間発達学研究科は、教育福祉をもとにしたところの研

究科でございます。この研究科では、大学院に対するカリキュラム、それから教育全体に対するアンケート、それから教育の懇談会等を頻繁にやっているのですけれども、これを定期的に実施して、意見を集めて、カリキュラムの見直しに繋げ進めていこうと、取り組んでいるところです。

具体的に申し上げると、例えばこれまで通年で４単位の授業が設定されていることも多かったのですけれども、これを２プラス２として、前期後期で分けることにしました。これによって、社会人なども非常に多いのですけれども、社会人の長期履修や休学をしなければいけない院生、あるいは院生の専門研究分野に合わせて、半期ずつ単位認定をすることによって履修のしやすさを確保することができます。また、看護学研究科の授業も履修できるような履修規程の改正を行っています。

また、講義科目についても、今年度から新たに、人間発達臨床という科目を設けております。これまでは臨床発達心理資格の資格を取る人用のような科目に捉えられていたものを改めて、人間発達臨床という科目を開講しました。また、人間発達学の研究報とか、そういう事業を院生からの意見を参考にしながら、見直し改善を図るということを決定しています。

それから、自治体・教育委員会との連携に関しては、特別ニーズ支援というものの研究を進めているのが、この研究科に関わっている生涯発達研究所です。そういうところや愛知県の総合教育センター、あるいは瀬戸市と連携して、教員やスクールソーシャルワーカー、臨床発達心理士などの専門職業人を対象としたような研修とか、研究会を実施しています。ここには他職種の連携研究会、それから特別ニーズ教育実践研究会などが行われるのですけれども、こういう場合、院生とか大学院の修了生が参加することによって、深く実践的な学びを得ることができます。そしてそれを調査研究にも生かすために、そういうものに触れる機会として位置付けているのが現状でございます。

○　委員

ありがとうございます。よく分かりました。

続きまして、同じく、県大向けの質問でございますが、項番19に関しまして、学長特別研究費の科研費採択奨励研究が設けられておりますが、これをどのように実際に科研費採択につなげていくのか、具体的な方策をご説明いただきたいと思います。

○　県立大学

この学長特別研究費というのは色々なものが入っているのですけれども、学長のリーダーシップのもとでの予算の有効な活用という見地から、設定されて

いるものです。この学長特別研究費、とりわけ科研費採択奨励研究というのは、研究者自身の専攻に関わる研究で、かつ、個人に配分される通常の研究費の範囲では行えない研究に対して報告するものです。

そのうち、このカテゴリーである科研費採択奨励金というのは、前年度の科研費の助成事業に、代表者として応募していて、その結果が不採択だったということが条件になります。そういう研究課題に対して、この研究の迅速な開始によって、次年度の科研費の採択が見込まれるという研究に対して、研究費を交付することで、大学として、当該教員がこの研究を継続して実施していくことができるような体制を整備するというものです。次の年の科研費の採択を奨励していくというものを期待して設定されているものです。

これまでの実績ですと、例えばこういう形で学長特別研究費として採択するとまず申請します。ほぼ全部、この学長特別研究費で採択した研究課題は、必ずその次の科研費に応募しています。採択率というのはちょっと、ここのところ、落ちているのですけども、最初の方は１件、２件とあったのですけれども、2021年度は０件でした。必ずその申請につなげていくという道筋を立てた上の研究費交付というふうになっています。以上です。

○　委員

ありがとうございます。続きまして項番45、こちらは県立芸術大学向けの質問でございます。大学ウェブサイトを大幅に全面リニューアルされたということですが、情報更新のための体制はどのように構築整備されていますでしょうか。特に、英語版サイトにつきまして、前回コメントさせていただいたのですが、更新チェック体制はどのように構築整備されてますでしょうか。また次に関連してですが、英語版のアクセス数と、どの国からアクセスがあるかについても教えていただけるとありがたいです。

○　芸術大学

まず、手続き的な話になりますけども、ウェブサイトの全てのページに所管部署が決まっておりまして、ウェブページの情報を更新する場合については、所管部署からウェブサイトの担当であります芸術情報・広報課という部署がありますので、そこの部署に依頼がいくことになっております。

この芸術情報・広報課という部署で、その内容のチェックをしまして、部長までの決裁で、更新していくという手続きになっております。

ただ、全学に影響するような大きな更新につきましては、一つの課では判断がつきませんので、全学の広報委員会で審議して承認するという流れになっております。これは英語のウェブサイトについても同様になっておりますが、特

に英語ウェブサイトだからといって、特別な手続きはありません。日本語が更新されれば同時に英語サイトも更新されるようになっております。

それから、アクセス数ですけども、現在のシステムでは英語版だけのアクセス数が把握できない状況になっておりますので、日本語と英語版を含めたアクセス数を説明させていただきたいと思います。令和４年度のアクセス人数は、全部で312,000人になります。そのうち、国別の内訳ですが、当然日本国からのアクセスが一番多いのですが、日本が294,000人になります。次いで中国が5,900人。アメリカが2,700人。フランスが1,300人とかそういう順になっております。今ちょうど英語版のリニューアルを進めておりますが、これを進めた後には、英語版だけのアクセス件数もわかるように、仕組みを変えていきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

○　委員

教えていただきたいのですが、そうしますと、日本語版も英語版も、まずは所管部署が情報更新をして、それを部長決裁で更新すると。内容につきましては、全学の広報委員会がチェックするということでございますが、前回もご指摘させていただいたのですけども、英語のチェックはどのようにされているのでしょうか。今は自動翻訳が使われていると思いますが、その自動翻訳がかなり正確性を欠いていると思います。そのことにより、大学イメージを損なっているのではないかという懸念があると思いますが、英語が正しいかどうかについてネイティブチェックはされてないのでしょうか。

○　芸術大学

現在は自動翻訳になっておりますので、チェックはしていないという状態になっております。リニューアル後はちゃんとネイティブチェックをしていく予定になっております。

○　委員

いつ頃リニューアルされる予定なのでしょうか。

○　芸術大学

予定では2024年3月になっていたのですが、前回の評価委員会でご指摘をいただきましたので、今打ち合わせを進めておりまして、少しでも早く更新できるように進めている状況です。今の段階でいつまでということは言えないのですが、もう少し早い段階でリニューアルできるように、調整を進めている状況でございます。

○　委員

ありがとうございます。続きまして、他の委員からいくつかご質問をいただいておりますが、せっかく委員がいらっしゃいますので、ご自身から質問いただけますでしょうか。

○　委員

かなりざっくりとした質問の仕方になっており、申し訳ないです。両大学も色々な教育の取組をされて、成果を上げております。その成果を上げたものに対してご説明をいただいているのですが、その成果の度合いの調査をどのように行っていて、そのデータはどこにあるのでしょうか。

例えば、学内に一回上がってきて、そこで議論して、その取り組みを続けるかどうかという意思決定の仕組みは、どのようになっているのでしょうか。一生懸命にやっている人が変わってしまったときに、良いものが続けられて、やっぱり成果がないものはやめることがきちんと出来る仕組みになっているのかをお伺いしたいです。

○　県立大学

県立大学の場合、教育支援センターを中心に大学の教育の充実とか改革とかをやっているのですけれども、全学的なＦＤを企画したり実施したりすることによって、学生による授業評価をどのように進めていくのかといった教育効果の評価に関して色々な議論を行っています。

教育の効果測定の１つの方法として、全ての専任教員が毎年度授業アンケートを実施しています。その上で、自己点検、自己評価というのを教員がやります。非常勤の先生方に対しても同じことをお願いしており、ポータルサイトを活用しながら、学生へのフィードバックっていうのを実施しています。

先ほど言及しましたＦＤ研究会も毎年開催していまして、授業の改善事例を共有したり、教養教育で科目群というのがありますけれども、それごとの改善の検討も、部会形式のような形で検討したりしております。ＰＤＣＡをまわしながら、効果検証と改善を行うという仕組みを運用しています。2021年度に新設しました教養教育の県大世界あいち学でも、新たに開講した授業については定期的に授業評価を実施して改善を進めています。

先ほど、前田委員の方から言及のありました、データをどのように保存していくか、それをどのように活用していくか、現実の授業でどのように生かしていくかという点については、実は昨年度から今年度にかけて、内部質保証推進委員会という体制を学内で作っています。学部、学科、センター、そういうと

ころがメタとなるような基礎的なデータというのを、日々収集することによって、自己点検をして、内部質保証推進委員会から改善の提案をしていくという仕組みが動き始めています。

○　県立大学

内部質保証推進委員会の組織自体は、ここ数年で整えている状況です。まさしくそこにおいても、ＰＤＣＡを回している最中ですが、その体制は、評価委員会が中心になっております。その下に、今年度から動き始めた評価アセスメント委員会というものがあります。今はまだあるデータを整理する段階なのですが、これからそれらを整理して、どういうふうに活用していくのかを検討していきます。

内部質保証なので、教員の個々のレベルとそれらを集約した学部研究科のレベル、全体を統括するのが評価委員会ですので、その形で質保証を進めていきたいと考えております。同時にそれらを大学全体で動かしている教育支援センター等があります。このセンターは大学運営の仕組みと考えています。教育を中心とした流れと大学運営の流れと２本立てにしております。そしてその全体を内部質保証推進委員会が最終的に統括して管理しております。そういった仕組みを現在回そうとしているところです。

○　委員

直接的にそれをやろうとして、組織を作られているということが分かりました。ちなみにアンケートは何％ぐらい回収できているのでしょうか。どこの大学も多分それが悩みだと思います。

○　県立大学

授業アンケートについては、昨年度の数字ですと、長久手キャンパスが平均して35％、守山キャンパスが25％弱ぐらいです。今後、例えば今年度に関して言えば、インターネットでやると、学生は回答をしないので、教員がきちんと授業アンケートをするように、担当部署から中間報告が何回かあって、回収率が何％なのかという情報が全学部の教員に回っています。だから、これまでと違って、頻繁にリマインドされるので、授業アンケートがされるのが、最後の部分になってしまうのですけれども、最終的には、例年よりは少し良い数字になるのではないかと思います。

○　芸術大学

芸術大学の仕組みとしては、教育研究審議会と同列で大学評価委員会を設

置しています。大学の様々な情報点検を総括的に行って、実行すべき方針・内容を決定し発信しております。その下部組織として、自己点検評価専門部会を設置しております。ここでは、ＰＤＣＡサイクルに基づき、実績等を内容整理、精査を行って、方針を明確化しております。以前は、色々なところからの意見を集約する、将来計画委員会や各種専攻会議など、様々な部署から教育研究審議会に上がってきて、検討を行ってきたわけですけども、仕事の煩雑解消のため、それからもう少し風通しの良い評価につなげるために、整備をして、現在に至っています。

芸術大学では、各専攻やセクション、専門によって、全く授業内容が異なるため、例えば、総合大学だと週建ての授業が基本ですが、実技だと、それを延長して３週間とか４週間とか１ヶ月とかになっております。しかもその通年の中で一つの授業名になっていて、ただアンケートっていうと、本来の授業で一つのアンケートを行うのですけども、芸術大学の特徴として、大きな事業体の中に、色々なものがあって、その１個１個でアンケートを行っています。もう単なる授業ごとに留まらず、例えば教員と学生も始めた公開講評会などがあります。これは誰でも自由に参加できるし、先生も全員参加します。これは美術も音楽も同じように開催しています。例えば、四重奏や演奏会、オペラの練習、そのグループごとの講評会において、アンケートの実施もやっています。

専攻の例を挙げると、１つの授業で14回のアンケートを行っています。先ほど、回収率の話がありましたけど、全体的に行うアンケートっていうのは、確かに回収率はかなり低いと思いますが、この授業内で行うアンケートや１つの事業体のアンケートは、私のいる専攻だとほぼ100％に近い回収率です。それをもとに先生は次の授業に反映させていくと。さらに、公開講評会において、先生の意見も学生全員に晒される。また、先生同士がチェックし合うということや評価の共有などを行っております。自動的に講評会として、そういう機能を持ち合わせております。ただ、もちろん結果としては、それを数値化するまでには至ってないので、今後はそれをしっかり数値化していきたいと思っています。

○　委員

非常に組織ガバナンスをすっきりさせて、運営を変えているということが分かりました。非常に学生の意見をフィードバックしていると思うのですが、それがきちんと成り立っていることが重要だと思います。

○　芸術大学

一対一の対面授業というのが基本なので、そこでの学生からの苦情とか、そ

ういうものは言いにくいっていうのはあるかもしれませんけど、形に残っていない状況でした。それをなるべく形になるようにということで。前回の評価委員会でも、芸術大学特有の数値化というものがあるはずという意見も頂きました。第四期に向けて構築していくことを考えています。

○　委員

教員同士の情報共有が出来ていているので良いと思います。それが出来ていれば、別に数値化は目的ではないので、それがやっぱりこう残っていくということが大事だと思います。

○　委員

実は、直接今のご回答に対してではないのですけども、委員がお聞きになられたことに関連して、お伺いしたいことがございます。

芸術大学のウェブサイトのアクセスの状況ですけども、海外からは中国が最も多いということでございました。50分の１弱が中国からのアクセスであるということは、国内の少ない都道府県と比べても決して遜色のないアクセスがあるといえるかと思います。

そうしますと今度は中国、これは台湾等も含めたことになりますけれども、そちらに対する、簡体字なり繁体字の広報活動のあり方などについて、今後の強化等は何かお考えのことがあれば、ぜひ教えていただきたいと存じます。

ただし、特に県立芸術大学の場合は、留学生が単純に増えれば、それで良いということでは必ずしもないかもしれませんし、大学全体のお考えは当然あろうかと思います。その上で、最も国外からアクセスの多い中国に対するアピールについて、お考えのことがあれば教えていただきたいと存じます。

○　芸術大学

今のところ、確かに中国からアクセス数が多いですけども、特別に中国に向けての配慮として、アピールするような方針はありません。現状からいくと、多分、美術の中では一番中国の方が多い状況です。音楽の方は、ほとんどいません。

○　芸術大学

美術の方は、デザイン中心にかなり受験生はおります。特に大学院は増えています。ただ、だからと言って、学内で中国語の授業をしているのかというと、全く対応していなくて、どの国でも同じようですけれど日本語で授業を行っております。やっぱり、語学もありますが、基本的にはデザインだったらデザ

インのスキル、油画だったらその基本的なスキル、学部で培ってきたスキルが、どこまであるかという方が重視される状況です。極端に言うと、大学院になると、彫刻専攻や油画専攻などは、少し語学がおぼつかなくても、才能があるセンスの良い表現力のある学生を入学させることはあります。

○　芸術大学

おそらく、委員のご質問の趣旨としては、少子化等の問題もあるため、世の中が積極的に中国からの学生を受け入れていく傾向がある中で、本学がそういう方針があるのかということだと思いますが、今のところは、そういった方向には行っておりません。

ただ、自然の現象として、今申し上げたように、美術のデザインを中心に、特に大学院においては中国の学生が多いという現状があります。

○　委員

ここから先は質問というよりも、無責任な感想ということでお聞きいただければと思います。

例えば、ヨーロッパやアメリカのオペラハウスでも一番多いアジア人は中国人です。次は韓国人。特にオペラハウスは、韓国人がどんどん増えているような印象を持っております。日本人は一時期、一群を成しておりましたけど、今はちょっとぱっとしないような印象を持っております。

また、特にデザインの世界でも、国際的なコンクール等で、中国人は一位ということはないにしましても、中国系の名前を見ることが多いような印象を持っております。そういう中で、例えばアメリカの芸術系の大学等に進学するとなると、今の中国の金持ちはそんなことは気にしないのかもしれませんが、大変な費用がかかります。隣の日本において、こういう優れた芸術大学があり、整った環境の中で優れた教育が行われている。

もちろん、先ほども申しましたが、東京藝術大学であれば、国としての方針と直接結びついて参りますけども、県立芸術大学の場合は、地域貢献をどうするかということが重点に置かれるのかもしれないので、そこまでは重視されないかもしれません。しかしそれでも、中国で愛知県立芸術大学の評価、注目が高まり、それが良い形で国内においても、還流していくというようなことになれば、ご検討いただいてもいいのかなと思った次第です。あくまでも意見として、お聞きいただければと思います。

○　芸術大学

音楽の分野に関して申しますと、確かに東京藝大でもですね、特に声楽の分

野で中国人が増えた時期がありました。今はそういうことは全くなくなっております。多分中国という国が裕福になって、もう日本ではなくて、西洋音楽をやっているわけですから、わざわざ日本に来るのではなく、ダイレクトにヨーロッパやアメリカに行くというのは、自然の姿だと思います。韓国でもそうです。経済が強かったときに、日本が先にヨーロッパに出て行って、音楽家がオペラハウスのなかで活躍した時期もあります。実は、うちの卒業生は随分、ヨーロッパ、特にドイツのオーケストラや合唱で活躍しております。あまり知られてないですけれど。それはどうしてかっていうと、なかなか日本の中でそういったマーケットがないからです。もちろんオーケストラはありますが、ドイツに比べると、なかなか狭き門でございます。うちの学生に、将来がどういうふうになりたいというと、ピアノは無理ですけど、弦楽器の学生などは、オーケストラに必要とされるのであれば、オーケストラに入りたいっていう希望がまず出てきます。やっぱり、どうしても音楽家でやっていくとなるとドイツに渡っていってということが多いです。

その流れが、日本から韓国に行って、韓国人がすごく増えました。今のドイツの音楽大学の入学者は韓国人が多いです。それほど、韓国人の受験者数が増えています。それが今度は中国人に変わっているという状況は確かにあります。

○　委員

それでは、ただいまご説明いただきましたが、質問をされなかった先生方も含めまして、追加でご質問等ございますでしょうか。

（質問・意見なし）

【質疑】
　2022年度業務実績に関する評価について

○　委員
　それでは、議題「2022年度業務実績に関する評価」について審議に移りたいと思います。
　本日は、法人にも出席していただいておりますので、法人に確認したい事項等ございましたらその都度発言をお願いいたします。
　それでは、まず、2022年度業務実績に関する評価結果、資料１でございますが、１ページ目から順に確認していきたいと思います。
　まず項番１について評価案１は、全学部連携型授業について、指標を上回る３科目を開講したことにより「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」、評価案２は、複数学部連携型事業について３科目の開講と指標の数値を下回ったことにより「評価委員会は「年度計画を十分に実施している」が妥当であると判断する」の２案がございます。何かご意見、ご質問、確認事項等はございますでしょうか。

（意見・質問なし）

○　委員
　続きまして、項番２について、評価案は「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としていますが、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますでしょうか。

（意見・質問なし）

○　委員
　続きまして、項番４について、評価案は「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としていますが、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますでしょうか。

○　委員
　こちらの評価ですけれど、昨年まで３評価だったと思います。おそらく、準備に時間がかかったりして、実際に実装できるまで、なかなか年度内に達成できなかったというお話は伺っております。2022年度に達成できたところで、この評価アップに繋がったのはどのような点なのかお伺いしたいです。

○　県立大学

大学でカリキュラムなり、組織の改編をしようとすると、準備に２年ぐらいかかってしまいます。ここに掲げられているものを、全５学部で何らかの形の取り組みをやっております。例えば、スペイン語・ポルトガル語専攻の方だと、愛知県の場合には、外国籍の方々を念頭に置いた取り組みっていうのがありますので、大学院の方でも、コミュニティ通訳学コースで研究されている通りですが、そういう愛知県の言語状況、多国籍の人たちの中でも言語状況に合わせた形で、言語を広げたという大きな改革を行いました。

それから、日本文化学部の方に関しては、災害という言葉からお分かりの通り、実はこの科目は看護学部と連携してやっております。日本文化という、内向きになりそうなところが、他学部と連携しながら地域の課題を考えていくものです。

教育福祉は、地域に根差しつつ、国際的なことや文化の多様性を念頭に置いた取組を行っております。

看護学部は、災害看護という領域で外部資金も得ながら大きく展開しております。それから、情報科学部は、コース編成に伴って変更していくことを、質の保証から確保していくことを行っております。

おそらく、これまでのうちの大学の学部の性格からなかなか踏み出せなかったところに、時間をかけながらですけど、踏み出したという点で５学部が全てどこも置き去りにならない形で進めてきたということで、今回の評価をさせていただいているという認識でおります。

○　委員

どちらかというと、コミュニケーションをとらないと進められないようなことが多々ある活動だったと思いましたので、コロナ禍が少し緩和されて、加速して頑張られたのかなというような印象を受けました。

○　県立大学

学部の連携もすごく難しかったのですが、それをこの第三期で進められたというところは、はっきり我々が自負できるところかなと思います。そのように評価していただけると大変ありがたいです。

○　委員

その他に、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますでしょうか。

（意見・質問なし）

○　委員
　続きまして、項番５について、評価案は「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としていますが、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますでしょうか。

（意見・質問なし）

○　委員
　続きまして、項番18について、評価案は「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としていますが、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますでしょうか。

（意見・質問なし）

○　委員
　続きまして、項番19について、評価案は「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としていますが、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますでしょうか。

（意見・質問なし）

○　委員
　続きまして、項番22について、評価案は「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としていますが、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますでしょうか。

（意見・質問なし）

○　委員
　続きまして、項番30について、評価案は「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としていますが、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますでしょうか。

（意見・質問なし）

○　委員
　続きまして、項番36について、評価案は「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としていますが、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますでしょうか。

（意見・質問なし）

○　委員
　続きまして、項番39について、評価案は「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としていますが、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますでしょうか。

（意見・質問なし）

○　委員
　続きまして、項番40について、評価案は「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としていますが、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますでしょうか。

○　委員
　芸大で自動ピアノ演奏ですとか、遠隔の新たな試みが行われたということですが、例えば、東京藝大の博物館等と並んで、日本中から訪問客も多いところとして知られている浜松の楽器博物館とコラボレーションするような計画はあるのでしょうか。

○　芸術大学
　明確なコラボ案は、今のところ出てきておりません。

○　委員
　その他に、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますでしょうか。

（意見・質問なし）

○　委員
　続きまして、項番41について、評価案は「自己点検の「年度計画を上回って

実施している」は妥当であると判断する。」としていますが、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますでしょうか。

（意見・質問なし）

○　委員
　続きまして、項番45について、評価案は「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としていますが、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますでしょうか。

（意見・質問なし）

○　委員
　続きまして、項番48について、評価案は「自己点検の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としていますが、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますでしょうか。

（意見・質問なし）

○　委員
　続きまして、項番33について、評価案は「自己点検の「年度計画を十分に実施している」は妥当であると判断する。」としていますが、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますでしょうか。

（意見・質問なし）

○　委員
　続きまして、項番46について、評価案は「自己点検の「年度計画を十分に実施している」は妥当であると判断する。」としていますが、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますでしょうか。

（意見・質問なし）

○　委員
　以上が、これは2022年度の業務実績に関する評価結果でございます。

【質疑】
　第三期中期目標期間における業務実績見込に関する評価について

○　委員
　続きまして、議題の「第三期中期目標期間における業務実績見込に関する評価」について審議に入りたいと思います。
　法人にご確認いただきたい事項がございましたらその都度ご発言をお願いいたします。

○　委員
　項番１について、評価案は「自己点検の「中期計画を上回って実施する見込である」は妥当であると判断する。」としていますが、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますでしょうか。

○　委員
　先ほどの資料１と比較すると、全学部連携型授業は３科目、複数学部連携型授業は３科目となっております。これに対して資料２の今後の事業実施見込については、2024年度には、全学部連携型授業を４科目、複数学部連携型授業を４科目となっております。新たに2024年度から実施する予定の授業については、具体的に論議されている状態なのでしょうか。

○　県立大学
　県大世界あいち学は2021年度に新設されておりまして、大学は４年間ですので、2024年度が完成年度になります。カリキュラムですので、全部が１年生に向けたものではなくて、２年生以上として設定されているものもありますので、それらを合計した場合に、４科目になるということでございます。ここに出てくる数字だからまだ実現できていない部分もありますが、このカリキュラムを進めていくことによって、最終年度で全体像が現れるということになります。

○　委員
　新たに新設される科目名は既に決まってますでしょうか。

○　県立大学
　先ほど、今後の見込の説明でも出ましたが、県大教養ゼミナールという授業でございます。

○　委員
　その他に、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますでしょうか。

（意見・質問なし）

○　委員
　続きまして項番４について、評価案は「自己点検の「中期計画を上回って実施する見込である」は妥当であると判断する。」としていますが、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますでしょうか。

（意見・質問なし）

○　委員
　続きまして項番５について、評価案は「自己点検の「中期計画を上回って実施する見込である」は妥当であると判断する。」としていますが、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますでしょうか。

○　委員
　長期インターンシップは、具体的にどれくらいの期間実施するものなのでしょうか。また、派遣先はどういったところなのでしょうか。

○　県立大学
　期間については、５日間以上、もしくは30時間以上となっております。
　派遣先としては、トヨタコネクティッド株式会社ですとか東郷製作所とか、トーテックアメニティ株式会社等が今年度の予定としているところです。

○　委員
　インターンシップの目的を達するためには、１週間あれば良いというお考えなのでしょうか。

○　県立大学
　５日間で30時間ですので、１日６時間という単純計算で設定しているものでございます。

○　委員
　私からも関連して質問ですが、この長期インターンシップについては、どの

ように継続的に行き先を確保するようにしているのでしょうか。例えば企業ともＭＯＵを結ぶとか、何らかの組織的連携を図っておられるのでしょうか。もしくは学生が見つけてきた企業に送り出すという形なのか、どのように派遣体制を構築していますでしょうか。

また、単位認定をするということですが、どのような仕組みでしょうか。

○　県立大学

この点については、学生が個人的に拾ったところがどのぐらいあるかは分からないですけど、情報科学部が組織として、県内の企業等との連携を進めていくという点から、ＭＯＵを最終的には結ぶ等の取り組みを行って、安定的な派遣先を確保するのだろうと考えております。これは組織としての方針として定まっていると思います。

単位認定の仕方については、詳細を把握していないですけれど、少なくとも、担当の教員が、派遣しているインターンシップ先と連絡を取りながら、その派遣先での学びの姿勢や取り組みの姿勢を、学生の自己申告や報告もあわせながら、単位認定に当たりするかどうかという最終的な評価を行うという通常の方法をとっているものと思います。特別な、アクロバティックの方法を目指しているということは聞いていないです。

○　委員

現在、例えばインターンシップ覚書などを交わしている企業はまだないのでしょうか。

○　県立大学

正確なことは申し上げられないので、大変申し訳ないですが、少し調べる時間をいただければありがたいです。申し訳ありません。

○　委員

非常に素晴らしい試みだと思います。情報科学研究科ですと、ＩＴ関連の企業ですとか、デマンドは非常にたくさんあると思うので、継続的なインターンシップの取り組みをインターンシップ覚書ですとか、インターンシップ協定のような形で、組織的な連携の方法を持つことによって、企業にとっては安定的に人材を供給する方法にもなるでしょうし、大学としても、学生さんの教育効果を非常に高めるということで、ウィンウィンになるアレンジではないかと思いますので、ぜひ進めていただければと思います。

○　県立大学

今の点について、少しだけ申し上げると、基本的に本学の場合、地域連携などを進める場合、ＭＯＵ形式で、通常は協力を明確にしていきます。

ですので、インターンシップとしてもその方法をとっていく、取っているということは間違いがないと思います。

同時に、先ほど、単位認定に関して私自身きちんとしたことは申し上げられないままなのですが、ただ情報科学部・情報科学研究科というのは、自分たちの組織の中に評価委員会、評価組織という、きちんとしたものを設けて認証評価にも備えているところですので、そういうところを図りながら、安易な単位認定ではない形の方式がとられていくということは間違いないと思います。

○　委員

参考までに、私が所属している学部で行っているインターシップの単位認定のやり方ですが、中国で展開している事業所でインターンシップを行っております。北京と上海です。受け入れ先の企業は、学部で開拓をしておりまして、覚書を結んでおります。前学期の間に座学形式で、中国語のビジネスレターの書き方の基礎のようなものや、お辞儀の仕方なことまで含めて行い、夏休みの間を使って、２週間、10日間を北京や上海で実施し、それをＡ４で、見開き２ページ分の報告書をまとめて、参加した全員の学生分の報告書を発行する。この全体で単位認定を行っております。教員は報告書の作成指導まで行うという形をとることで、教員の管理と、学部としての責任の所在を明確にするという形をとっております。

○　委員

その他に、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますでしょうか。

（意見・質問なし）

○　委員

続きまして項番18について、評価案は「自己点検の「中期計画を上回って実施する見込である」は妥当であると判断する。」としていますが、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますでしょうか。

（意見・質問なし）

○　委員
　続きまして項番19について、評価案は「自己点検の「中期計画を上回って実施する見込である」は妥当であると判断する。」としていますが、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますでしょうか。

（意見・質問なし）

○　委員
　続きまして項番22について、評価案は「自己点検の「中期計画を上回って実施する見込である」は妥当であると判断する。」としていますが、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますでしょうか。

○　委員
　ウィズコロナ時代における実施方法を検討するとございますが、何か具体的にウィズコロナならではのお考えがあるのでしょうか。

○　県立大学
　コロナという想定できなかった、非常に厳しかった事態が生じましたので、今後、そういった状況も想定しつつ、中期計画や目標など考えなければいけないという意味で、共存という意味での大学の在り方を考えていかなければならないということだと思います。例えば、看護学部の方で外部資金を受けたシミュレーション教育、文部科学省から承認された研究課題もウィズコロナという名称が付けられていたのですが、そういうことを念頭に置きつつ、ここが立てられているものというふうに私自身は理解しています。

○　県立大学
　５類になった今の時期にこれを読むと、時期遅れみたいな印象があると思いますけれど、コロナの酷かった時は、地域連携といっても、セミナーの人集めにも苦戦しておりました。年齢の高い人達は、オンラインでのやり方は難しいという声もいただいておりました。そういう新しい環境の中でどうやって新しい地域連携をしていくかということを考えていかなければいけないということでした。今は、コロナは終わってきましたので、それに合わせた形で地域連携を進めていくことを考えています。

○　委員
　コロナ禍の時は、物が思ったとおりに手に入らないとか、そういう有事があ

ったとしても対応できるように、今話された検討事項は必要だと思います。

○　委員
　その他に、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますでしょうか。

（意見・質問なし）

○　委員
　続きまして項番30について、評価案は「自己点検の「中期計画を上回って実施する見込である」は妥当であると判断する。」としていますが、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますでしょうか。

（意見・質問なし）

○　委員
　続きまして項番39について、評価案は「自己点検の「中期計画を上回って実施する見込である」は妥当であると判断する。」としていますが、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますでしょうか。

（意見・質問なし）

○　委員
　続きまして項番40について、評価案は「自己点検の「中期計画を上回って実施する見込である」は妥当であると判断する。」としていますが、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますでしょうか。

（意見・質問なし）

○　委員
　続きまして項番41について、評価案は「自己点検の「中期計画を上回って実施する見込である」は妥当であると判断する。」としていますが、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますでしょうか。

（意見・質問なし）
○　委員
　続きまして項番48について、評価案は「自己点検の「中期計画を上回って実

施する見込である」は妥当であると判断する。」としていますが、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますでしょうか。

（意見・質問なし）

○　委員
　続きまして項番45について、評価案は「自己点検の「中期計画を十分に実施する見込である」は妥当であると判断する。」としていますが、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますでしょうか。

○　委員
　150万件という指標は、どのような根拠に基づいた数字なのでしょうか。

○　芸術大学
　ここの数字までであれば何とか頑張れるのではないかということで、この数字が出来たと私は考えております。しかし、ここで問題になるのは、フェイスブックのカウントの仕方が変わってしまって、今回達成出来ていないので、この150万という数字を、今後達成できない可能性があることは申し上げておかなければいけないと思っています。ただ指標として一度掲げたものを途中で変更するというのは、なかなか難しいと思っております。

○　委員
　芸大のブランドと知名度のより一層の向上を目指すというのが中期計画です。これは以前の委員会でも随分議論が行われて、以前の委員からも再三ご指摘いただいた点でございました。
　特にこの項番は芸大に関してなので、芸大についてお尋ねします。ホームページ等を拝見いたしますと、例えば愛知県立芸術大学と出ている箇所と芸大と出ている箇所、英語サイトですと、Aigeiとそのまま出ている箇所など、大学名の表記がバラバラに出ています。これではブランド力の向上は非常に難しいのではないかと思います。実は県大につきましても、以前も質問させていただいたこともありますが、一部ではＡＰＵという表記が使われていたり、使われていなかったりしています。例えば、海外の大学ですと、シンガポール国立大学もＮＵＳとして、全世界に周知されていますし、カリフォルニア大学ロサンゼルス校はＵＣＬＡとして、世界中に周知されています。大学名をどう世界的に周知し、ブランドとして、世界に知らせていくかは非常に重要な大学の戦略であると考えております。その意味でも、表記がバラバラであるのは、ブラン

ド力構築、知名度のより一層の向上という意味では、非常に弱点ではないかと考えております。

そういう意味で特にAigeiって、おそらく外国人が読んでも何のことかさっぱりわからないと思います。ですので、何らかの世界的にアピールするような、略称を確立する必要があるのではないかと考えます。すでに再三出てきた指摘でありましたが、この点につきまして、お答えいただければと思いますが、いかがでしょうか。

○　芸術大学

英語の略称については、もう決まっておりましてＡＵＡといいます。ＡＵＡのロゴを作るところでストップしております。もうすぐこのロゴが確立されて、出ていくと思います。

あと、略称についてはなかなか難しい問題があって、もう随分前に愛芸でいこうということが、一旦決まったのですが、どうしてもやっぱり県芸という名称でずっと親しんでこられたので、卒業生は愛芸という名称に馴染むことが難しいです。県の関係の方は県芸とおっしゃるのですが。

○　芸術大学

まず国公立で５芸大というものがあります。東京藝術大学、愛知県立芸術大学、京都市立芸術大学、金沢美術工芸大学、沖縄県立芸術大学。ここの中で、それぞれ略称というか、棲み分けができていて、金沢だったら金美、京都市立芸術大学だったら京芸、沖縄県立芸術大学だと沖芸。なぜか、東京芸大だけは芸大と言います。そこからすると、この中部地区においては、愛知県立芸大は県芸って言いますが、沖縄県立芸大についても県芸でしょって話になります。そうなると愛芸になるのです。

あとは、愛芸っていうのが、浸透しているのかというと、なかなか浸透しないし、愛芸とうたってしまって、それで皆さんが呼んでくれるかというと難しいとこもあります。

ただ、やはり一本化しないといけないというところで、もう今学長がおっしゃったように、愛芸でいくしかないのかなというところが正直なところです。

○　委員

芸大も日本語の略称です。愛芸も同じです。そうなると、国際通用性ということを考えると、愛知県立芸術大学の略称であるということを、おそらく日本人以外は全く理解できないと思います。芸術大学の芸大というのも同じで、そういう意味では、先ほど５大学の略称を挙げていただきましたが、どの略称も

国際通用性は非常に弱いと言わざるをえないと思います。

国際的な発信という観点で申しますと、もう少し国際通用性のある略称が良いと思います。ＡＵＡで行く方が、今後長い目で見たときに、海外の方々が、愛知県にＡＵＡがあるという認識を高めていく点で効果的なのではと思いました。

○　芸術大学

おっしゃるとおりでございます。国内においては色々なことがあっても仕方ないのですが、やはり海外に発信する時にはＡＵＡで統一する。そこで愛芸という表記を使っていること自体、あまり認識しておりませんでした。そこに関しては統一をしなきゃいけないと思います。

○　県立大学

うちの大学は外国語学部もありますし、英語のページももちろんありますが、必ずしも十分な出来ではなくて、実は今２年目ですけれども、私が一応ヘッドになった形で、英語のホームページを大幅更新するというプロジェクトを進めています。ネイティブの先生とかも入って、海外経験を持っている教員でやっております。最終的に教研審に諮って、今年の９月に一部公開して、来年１月に全面公開という形で進めています。

略称の問題の話をしますと、我々の場合だと、アイチプリフェクチュアルユニバーシティですのでＡＰＵになります。そうなると先に同じ略称を持った立命館アジア太平洋大学ある訳です。そうしますと、バッティングしてしまって、非常に微妙な問題がある訳です。でも、アイチプリフェクチュアルユニバーシティは正式な名称です。今考えているのは、もう略称で話すことを、一旦脇に置いておいて、プリフェクチュアルを前面に出すことを考えています。私たちのアイデンティティとしては、何よりもプリフェクチュアルというのはすごく重要にしているので、第１にプリフェクチュアル、第２に愛知、第３にユニバーシティということで、何よりプリフェクチュアルだということを前面に出して、目立つようなホームページの構成にしています。

そのプリフェクチュアルがどういうところかっていうと、インクルーシブだとか平等だとかダイバーシティだとかそういうことを認めるような大学であるという趣旨で、英語の表記にしています。非常に苦労している部分なので、世界にでていく時には、短くした記号のような形ではなくて、もう少し違う戦略を今描いているところです。

○　委員
　ブランド力構築はどこの大学も非常に重要なことだと思いますので、そこが進むことを願っております。
　それから、時間も押しておりますが、実は先ほどの、英語のウェブサイトについて、できるだけ早くリフォームをされるというお話でしたが、緊急性をご理解いただいてないのではないかという懸念があります。もう時間が押しておりますので、具体的な懸念事項についてのコメントは差し控えさせていただきます。事務局を通じて、具体的な懸念事項につきまして、お伝えさせていただきたいと思います。県大もネイティブの方を入れて検討されているということですので、ぜひ芸術大学におかれましても、先ほどのお話ですと、アメリカやフランスからのアクセスがあるようですので、できるだけ早期に対応いただけると、よろしいかなと思います。

○　委員
　その他に、何かご意見、ご質問、確認事項等はございますでしょうか。

（意見・質問なし）

○　委員
　それでは、評価案について取りまとめていきたいと思います。法人の皆様はご退席をお願いします。

（法人退席）

○　委員
　それでは、2022年度の業務実績に関する評価について評価案を一件一件確定させていきたいと思います。項番１につきましては、評価案が２つあります。どちらにするかご意見をお願いします。

○　委員
　私は上回っているという評価案１で良いと思います。これは、指標をどうするかというところに関わるのですが、開講したけども２年次からだったので、指標には該当しなかったという説明がありました。
　それから、これは指標にはならないんですけども、むしろ私が重視するのは、制度として、担当者が変わっても今後継続していくような仕組みを作っていることが一番大事だと思います。私の所属する大学では、担当者がいなくなると

断ち切れてしまうとか、逆にそれを専門の人間を新しく採用しないと継続できないだとか、そういった動きがすぐ出てきてしまいます。ここは指標には入ってないのですけども、むしろ今後はこういったことも含めて指標化できればいいかなと思います。そのことを含めて、上回っていると思います。

○　委員
　今までは、数値がある以上はそれを評価すべきではないかということでやってきたと思います。それを内容の判断により、運用を変更するのであれば、それなりの理由が必要になってくるのではないかと思います。理由を持って評価を行ったということをより明確に示す必要があるのではないかと思います。

○　事務局
　指標について、回答させていただきたいと思います。指標にも2024年度までに達成するものと毎年その指標の数値をクリアしなければいけないものがございまして、この指標につきましては、2024年の最終年度までにクリアする指標ということになっております。よろしくお願いします。

○　委員
　それが分かれば、特に問題ないと思います。

○　委員
　それでは、この指標は最終年度までに達成するということですので、今年度につきましては、Ⅳ評価とさせていただいてよろしいでしょうか。

（意義なし）

○　委員
　続きまして、項番２につきまして、「自己評価の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としてよろしいでしょうか。

（意義なし）

○　委員
　続きまして、項番４につきまして、「自己評価の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としてよろしいでしょうか。

（意義なし）

○　委員
　続きまして、項番５につきまして、「自己評価の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としてよろしいでしょうか。

（意義なし）

○　委員
　続きまして、項番18につきまして、「自己評価の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としてよろしいでしょうか。

（意義なし）

○　委員
　続きまして、項番19につきまして、「自己評価の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としてよろしいでしょうか。

（意義なし）

○　委員
　続きまして、項番22につきまして、「自己評価の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としてよろしいでしょうか。

（意義なし）

○　委員
　続きまして、項番30につきまして、「自己評価の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としてよろしいでしょうか。

（意義なし）

○　委員
　続きまして、項番36につきまして、「自己評価の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としてよろしいでしょうか。

（意義なし）

○　委員
　続きまして、項番39につきまして、「自己評価の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としてよろしいでしょうか。

（意義なし）

○　委員
　続きまして、項番40につきまして、「自己評価の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としてよろしいでしょうか。

○　委員
　先ほど、河辺委員から浜松楽器博物館との連携についてのご意見がありましたが、地域連携は県外の施設と実施しても問題ないのでしょうか。

○　委員
　実は、この件については、項番30に関係しておりまして、国際室内楽フェスティバルの開催に向けた検討がずっと進捗がないままの状況となっていますが、これは中期目標としては一番大きな問題になると思われます。そこで、浜松市であれば、浜松楽器博物館もありますし、ヤマハやカワイなどもあり、さらに、テクノロジーの集積地でもあります。また、国際的なピアノコンクール等も実施しています。そこと連携して、自動ピアノ演奏や遠隔演奏等のテクノロジーを使用したものが出来ればと思って、質問をしました。

○　委員
　私も個人的にはすごく良いアイデアだと思います。浜松市は楽器の世界的な産業クラスターですし、浜松市は街中にも楽器があります。芸術大学とは連携の余地があると思います。

○　委員
　芸大の守備範囲は、静岡から滋賀あたりまでということを考えるともっと広く見て良いのではないかと思います。またそれは、英語や中国語での発信にも繋がっていくべきものだと考えます。

○　事務局
　地域連携としては、まずは愛知県の企業等と連携していただきたいという思いはありますが、他県と連携してはいけないとかそういうものはありません。

○　委員
　東三河が少し地盤沈下を起こしていて、浜松の方へ少し吸い取られているような面があります。だからこそ、むしろ、愛知県側としては何とか引っ張ってきて、何とかコネクションを作っていくという視点もあっても良いのかなと思いました。

○　委員
　ピアノのコンクールとか、ヤマハの方がずっと付きっきりで対応しているのをテレビ等のドキュメンタリーでよく見ます。一体化して戦略を練ってやっています。芸大の学生や卒業生が世界のコンテストに挑戦する時に、楽器メーカーを取り込むというのは、とても重要です。一緒に戦略を練るという意味でも、味方につけておいて、世界進出を目指すというシナリオを作ると良いと思います。

○　委員
　室内楽フェスティバル色々な考え方はあると思いますが、世界的な拠点なので、利用しない手はないと思います。

○　委員
　別件で、科研費の申請件数について、計画の実施状況では24件になっていますが、これは誤りでしょうか。24件でも指標を上回っているので、問題ありませんが、31件という数字はどこから来るのでしょうか。

○　事務局
　法人から提出されているデータ集に申請件数が記載されており、申請件数は31件となっています。これが正しい数値です。

○　委員
　27ページに記載されているのは、科研費に係る申請件数ということですね。他の助成金を合わせると31件になるということですね。納得しました。

○　委員
　それでは、項番40につきまして、「自己評価の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としてよろしいでしょうか。

（意義なし）

○　委員
　続きまして、項番41につきまして、「自己評価の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としてよろしいでしょうか。

（意義なし）

○　委員
　続きまして、項番45についてですが、確かに地形劇場の観覧席の整備のために、クラウドファンディングを実施し、大きく上回って達成したことは素晴らしいと思います。一方で芸大の英語版のウェブページに誤った記載が多く、前回の評価委員会でも指摘させていただきましたが、未だ改善されている様子がありません。
　見出しのところや学長のプロフィールの画面で、機械翻訳による不適切な表記が多く掲載されている状況でして、大学のイメージを損ねている状況にあると思います。このような状況で、上回っているという評価は難しいかなと思います。

○　委員
　委員長のお話を伺いまして、今はインターネットの時代なので、もう少し危機感を持ってもらうために、下げてもいいかもしれないと思います。

○　委員
　とにかく緊急避難的に、間違った情報を提供してしまっているものについては、少なくとも８月末ぐらいまでには、今ある情報のうち大きな間違いは訂正するような形にしていただきたい。もちろん、日々更新していくものは、追いつかないと思いますけど、今は見出の項目についてもかなり深刻な状況になっていますので、そこは一刻も早く直された方がいいと、個人的には思います。

○　事務局
　分かりました。その旨大学の方へ伝えまして、先ほど、現在取りかかってい

る話だったのですけれども、とりあえず今の段階で、いつまでに可能なのかを確認しまして、ご報告させていただきます。

○　委員
　それでは、それを踏まえて、Ⅳ評価は難しいのではないかと思うのですが、先ほど、山本委員からも、下げても良いのではというご提案をいただいたのですけど、いかがでしょう。

○　委員
　この項目の根本は、正しい情報を発信するという趣旨なので、150万件以上アクセスさせるということ自体が目標ではないと思います。知名度の向上を目指すというのが一番大事なことだと思いますので、精度を欠く情報を載せているのは良くないと思います。

○　委員
　では、Ⅲ評価ということでよろしいでしょうか。

○　委員
　はい、結構です。具体的な誤訳例ではなくて、機械翻訳だということは、芸大側も認めているわけですから、機械翻訳による不適切なものが多く認められたというふうに書けば良いのではないでしょうか。

○　委員
　そのように、議事録にも残し、説明をつけた上で、年度評価を上回って実施ではなく、年度計画を十分に実施している、が妥当であるとしてよろしいでしょうか。

（意義なし）

○　委員
　続きまして、項番48につきまして、「自己評価の「年度計画を上回って実施している」は妥当であると判断する。」としてよろしいでしょうか。

（意義なし）

○　委員
　続きまして、項番33につきまして、「自己評価の「年度計画を十分に実施している」は妥当であると判断する。」としてよろしいでしょうか。

（意義なし）

○　委員
　続きまして、項番46につきまして、「自己評価の「年度計画を十分に実施している」は妥当であると判断する。」としてよろしいでしょうか。

（意義なし）

○　委員
　最後に全体評価の案が提示されております。これについて、ご意見等はございますでしょうか。

（意見なし）

○　委員
　続きまして、第三期中期目標期間における業務実績見込評価ついて、評価案を一件一件確定させていきたいと思います。

　まず、項番１につきまして、「自己評価の「中期計画を上回って実施する見込である」は妥当であると判断する。」としてよろしいでしょうか。

（意義なし）

○　委員
　続きまして、項番４につきまして、「自己評価の「中期計画を上回って実施する見込である」は妥当であると判断する。」としてよろしいでしょうか。

（意義なし）

○　委員
　続きまして、項番５につきまして、「自己評価の「中期計画を上回って実施する見込である」は妥当であると判断する。」としてよろしいでしょうか。

（意義なし）

○　委員
　続きまして、項番18につきまして、「自己評価の「中期計画を上回って実施する見込である」は妥当であると判断する。」としてよろしいでしょうか。

（意義なし）

○　委員
　続きまして、項番19につきまして、「自己評価の「中期計画を上回って実施する見込である」は妥当であると判断する。」としてよろしいでしょうか。

（意義なし）

○　委員
　続きまして、項番22につきまして、「自己評価の「中期計画を上回って実施する見込である」は妥当であると判断する。」としてよろしいでしょうか。

（意義なし）

○　委員
　続きまして、項番30につきまして、「自己評価の「中期計画を上回って実施する見込である」は妥当であると判断する。」としてよろしいでしょうか。

（意義なし）

○　委員
　続きまして、項番39につきまして、「自己評価の「中期計画を上回って実施する見込である」は妥当であると判断する。」としてよろしいでしょうか。

（意義なし）

○　委員
　続きまして、項番40につきまして、「自己評価の「中期計画を上回って実施する見込である」は妥当であると判断する。」としてよろしいでしょうか。

（意義なし）

○　委員
　続きまして、項番41につきまして、「自己評価の「中期計画を上回って実施する見込である」は妥当であると判断する。」としてよろしいでしょうか。

（意義なし）

○　委員
　続きまして、項番48につきまして、「自己評価の「中期計画を上回って実施する見込である」は妥当であると判断する。」としてよろしいでしょうか。

（意義なし）

○　委員
　続きまして、項番45につきまして、「自己評価の「中期計画を十分に実施する見込である」は妥当であると判断する。」としてよろしいでしょうか。

（意義なし）

○　委員
　最後に全体評価の案が提示されております。これについて、ご意見等はございますでしょうか。

○　委員
　ウィズコロナ時代という言葉が入っておりますが、５類になった現在では、状況にそぐわないような感じもします。新型コロナウイルスという言葉が何回も出てきており、少し違和感もあります。年度計画の方にもウィズコロナ時代という言葉がありますが、これも引っかからない訳ではないのですが。区別がつくように、これまでの実績評価と見込評価であることが分かるように今後の２年間における評価は見込ということをどこかに記載するべきではないでしょうか。このコメントについては、委員長と事務局に一任ということでどうでしょうか。

○　委員
　３年間はコロナ禍だったので、それは記載して良いとおもいます。その後はコロナ禍は過ぎたので、分けて記載した方が良いと思います。

○　委員
　私も引っかかる部分と感じました。最初の部分はやむを得ないと思いますが、何回も出てくるのは少し気になります。先ほど、委員がご提案してくださったとおり、最終案の取りまとめについては、私と事務局に一任していただくこととしてよろしいでしょうか。

（異議なし）

○　委員
　それでは、本日いただいたご意見をもとに、評価結果案を取りまとめた後、法人へ意見の照会をいたします。次回８月22日に開催いたします第６３回評価委員会では、評価を決定する予定です。
　本日予定しておりました議題は全て終了いたしました。他にご意見等が無いようでしたら、終了したいと思いますがよろしいでしょうか。

（意見なし）

○　委員
　それでは、第62回愛知県公立大学法人評価委員会を終了いたします。ありがとうございました。

以上

会議録署名人　……

会議録署名人　……